

日本創生ビレッジ

Entrepreneurial Group For Growing JAPAN

EGG JAPAN

◀東京21cクラブ

インキュベーションオフィス▶

世界へ羽ばたく! 日本創生ビレッジ

人的ネットワークによる
会員制ビジネスクラブ「東京21cクラブ」と
ベンチャー企業のための「インキュベーションオフィス」で
構成される「日本創生ビレッジ」。
日本初の取り組みの現在を伺いました。

お話を伺ったのは、



三菱地所株式会社
街ブランド企画部
参事
福澤博之さん

新事業の創造拠点

東京駅の目の前、新丸の内ビルの10階に「日本創生ビレッジ」があります。人的ネットワークによる会員制ビジネスクラブ「東京21cクラブ」とベンチャー企業のための「インキュベーションオフィス」で構成されているビジネス拠点です。

「インキュベーション」とは、本来、抱卵や培養、保育などを意味し、ビジネスの世界では、国や公共団体などが、新企業の支援、育成をすることをさします。「日本創生ビレッジ」は、志あふれる事業家を支援、育成するための拠点なのです。

「そもそもはじまりは2000年。丸の内を再開発するにあたり、ソフト面でのいう取り組みが求められているのか、丸の内のテナント企業にヒアリングする中で、ベンチャー企業との接点を求める声が多かった。人や企業の交流は街の活性化に繋がります。そこで、起業家を支援するため、一般企業、法律家、会計士、銀行などの協力を得て、丸の内フロンティアという組織が立ち上がりました。当初は拠点となるスペースを持っていませんでしたが、2002

丸の内エリアの4000事業所・24万人のワーカー

連携

ビジネスクラブ(東京21cクラブ)約160坪

- *メンバー会員620人
- *教育・事業化支援など約30のグループで構成
(起業家・大企業社員・ベンチャーキャピタリスト・弁護士・大学教授・メディア関係者など)
- 教育プログラム・交流会(年間約200回)
- 個別事業支援・マッチング等
(事務局分年間約1000件)
- *ビジネス支援機能(研究・知財・資金・人材・販路拡大・法務・会計・ビジネスモデルづくり他)
- *会費16,800円/月



日本創生ビレッジ

インキュベーションオフィス 約240坪
(2007年5月～)

・入居企業

- IT系3社
- 生活産業系2社
- 産業技術系3社
- 金融系1社
- サービス系5社

・収益

- 低廉利用料
+ストックオプション

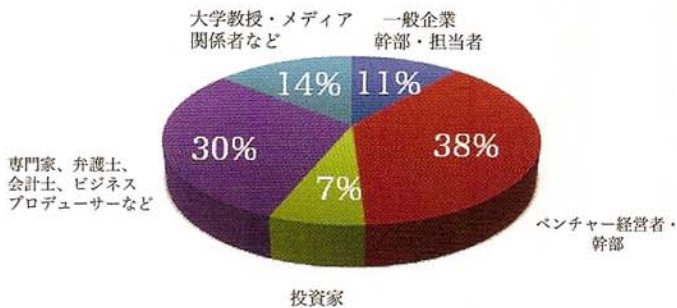


これまでに5社が新規株式公開

(2000年より支援活動を試行展開)

※2010年1月現在

東京21cクラブメンバー構成



※2009年9月末現在

年の丸ビルオープンと同時に、新事業創造の輪を広げる場として、会員制のビジネスクラブ「東京21cクラブ」を創設しました(三菱地所株式会社 街ブランド企画部 参事 福澤博之さん)

その後、丸の内フロンティアで支援してきた企業5社が、東証マザーズ、ジャスダック、ヘラクレスなど

の株式市場へ上場を果たしました。

「丸の内フロンティア」の創生が

「起」とすれば、「東京21cクラブ」

の誕生と各社の上場は「承」といえます。そして、「転」となるのは、

2007年5月、「東京21cクラブ」

を新丸の内ビルへ移転するとともに、

隣接する形でインキュベーションオフィスを開設し、クラブ・オフィス

が一体となった「日本創生ビレッジ」が誕生したのです。

オフィス隣接で

交流が広がり、深まった

日本創生ビレッジはクラブゾーン

とオフィスゾーンに分かれています。

インキュベーションオフィスには14社(2010年1月現在)が入居し

ていますが、オフィスに入居している人たちも東京21cクラブメンバー。オフィススペースはあまり広くないので、ミーティングなどはほとんどクラブスペースで行われるそうです。オープンスペースだけでなく大小の会議室もあります。

東京21cクラブは、新事業創造のために欠かせない人の輪、ネットワ

地域イノベーションを推進する新事業創造拠点
日本創生ビレッジ
 Entrepreneur Group for Growing JAPAN
EGG JAPAN
 (新丸の内ビルディング10階 約400坪)



東京圏以外の地域連携

札幌・仙台・富山・名古屋
 三重・京都・大阪・広島・福岡...

グローバル連携

西海岸

- **グローバルコネクト**
 *カリフォルニア大学サンディエゴ校発の世界横断ベンチャー支援組織
- **USマーケットアクセスセンター**
 *海外企業の米国市場進出を支援している非営利組織
- **プラグアンドプレイ**
 *シリコンバレーのインキュベーションセンター
- **サンブリッジパートナーズ**
 *オラクルジャパンの設立者のアレン・マイナー氏が代表を務めるベンチャーキャピタル
- **カフマンフェローズプログラム**
 *カフマン財団が運営するベンチャーキャピタリスト向けの教育プログラム



アジア

- **インド工科大(IIT)**
- **TIEネットワーク**
 *インド人起業家支援ネットワーク
- **GATEWAY TO JAPAN**
 *当社を含め3社で運営するインド企業の日本進出支援プログラム
- **iAXIL**
 *インキュベーション施設を運営している地元デベロッパーのグループ会社



研究開発拠点

企業

大学機関

大学機関

研究開発拠点

日本創生

Tokyo

「現在の会員数は約620名。2022年のスタート時は約200名でしたから、3倍以上になりました。ここまですべて増えるとは予想外。うれしい驚きを感じています」
 その会員たちの相互の交流はもちろん、インキュベーションオフィスに入居するベンチャー起業家たちと

も相互に交流することができるといえるでしょう。「日本創生ビレッジ」の一番の強み
 「東京21cクラブには、アントレプレナー支援のための丸の内フロントエリアをはじめとする約30のネットワークグループで構成されており、さまざまな業種の会員たちが相互に出会い、新しい輪を築いています。」

©2009 Mitsubishi Estate Co., Ltd.

さらなるグローバル化が
 進行中!

各グループによるセッションは年間200件以上ありますし、事務局がコーディネートする事業相談やマッチングも年間1000件を超えます。また年に2回は全体でネットワークングパーティーも行っており、いつも何かしら新しい出会いがあり、新しい交流の輪が広がっています」

さまざまな交流の輪が広がり、新しいもの・ことが生まれている日本創生ビレッジですが、最近はいよいよグローバル化が進んでいるそうです。ひとつは日印のネットワークの広がります。近年、飛躍が目覚ましい

日本創生ビレッジ
 Entrepreneur Group for Growing JAPAN
EGG JAPAN

東京21cクラブ
 Tokyo 21c Club
インキュベーション
 Incubation Office



日印の架け橋となるコンサルティング会社、(株)サンアンドサンズ アドバイザーズ

【インキュベーションオフィス】



オフィスの通路は狭いため、入居者同士が声を掛け合わずにはられない



音楽の新しい楽しみ方を提供するミュージックセキュリティーズ(株)

インドですが、東京21cクラブにインド人の起業家の方が加わったことを契機として、インド人の会員が増えたそうです。

「インド人起業家の支援ネットワークは世界中にあるのですが、ほとんどは英語圏でした。その支援ネットワークのひとつが丸の内に誕生し、非英語圏初の拠点となりました」

インド企業の日本進出を支援した

り、さまざまなイベントを企画するなど、日印の交流が深まっています。

そしてもうひとつは、アメリカ西海岸、とくにシリコンバレーとの連携が強まっていることです。

「シリコンバレーのプラグアンドプレイというインキュベーションセンターでは、ベンチャー企業を対象にしたビジネスプランコンテスト(PAC T= Plug and Play Acceleration and

Collaboration Track)を行っていました。その日本予選を2009年より創生ビレッジで行うことになったのです。

そこで創生ビレッジに同居している企業をはじめ、多数の企業がエントリーし、創生ビレッジの入居企業1社と、21cクラブの会員企業1社が予選を通過しました。米国での本選には、世界から47社が出場し、2



社は見事に「ファイナリスト」3社に選出される快挙を達成しました。

この結果、世界進出の足掛かりとなる、ベンチャーキャピタルや支援企業との接点を持つことができました。そして何より、日本のベンチャー企業の実在感を世界に示すことができたのです。今後も、日本のベンチャーの海外展開を後押ししていきたいと思えます。

ゆくゆくは丸の内を世界で最もインフラクションが活発な街にすることが私たちの目標ですから」

世界とのネットワークが強化されつつある、日本創生ビレッジ。東京駅の目の前にあるという立地条件からいっても、丸の内のみならず、日本における新事業創造の拠点といつてよいのではないのでしょうか。

【21cクラブゾーン】

ミーティングなどができるオーフンスペース



コーヒーなどの飲み物や食事などを提供するキッチンも備えている



大小の個室も完備。大きい部屋では会食なども行われる



インキューベーションオフィスに入居中の企業

次は大手町に 新しい拠点を誕生させる

そしてさらに一歩進むためのプランが着々と準備されています。次は大手町です。

「大手町で進んでいる連鎖型再開発の第2次事業期において、国際金融機能の強化に向けた支援施設を整備

する予定です。具体的には、次世代を担う金融人材を育成し、交流を図る施設をつくります。現在は東京21cクラブの会員の方をはじめ、いろいろな方にヒアリングをしているところ。大手町、丸の内、有楽町の知の集積を生かし、これをさらに強めることのできる機会をつくる場

にしたいと思っています」

2000年に種をまきはじめて取り組みが、10年の年月を経て、熟成し花開こうとしています。多くの人々が出会うことで作り上げられていくネットワーク、そこから生まれる新しい価値。それが丸の内のブランド

価値を高めていくのは間違いないようです。今後の日本創生ビレッジの展開から目が離せません。